

# 四つ葉のクローバー

発行所  
桐生厚生総合病院 中央検査部  
責任者 吉田カツ江

理念 臨床検査の質的向上と信頼性の確保

2006年7月発行

検査部探検シリーズ

現場風景から

第 8 号は、かねてから質問が最も多かった、血液検体検査について特集しました。早速、採血された検体が、どのような段階を経て検査が行われ、報告されるのかご紹介しましょう。



採血室案内板



採血室案内板



中央検査部採血室

ヒトのカラダには、どの  
くらいの血液があるか、  
ご存知でしたか？

「こんなに採血してカラダの血液  
が無くなるの？」  
など、心配する相談を受けます。

「計算例」 それでは、いったいどの位か計算してみることにしましょう。一般的には体重より求めます。7%程度が全血液量とされているので、体重 50kg の場合、次の計算式で求めることができます。

$$50 \times 7 / 100 = 3.5 \text{ L (3500ml)}$$

仮に、5 本採血されたとしても、生化学検査 6ml、血液検査 2ml、血糖検査 1ml、免疫検査 6ml、凝固検査 2ml として、合計 17ml ほどになります。全体量からみればまったく問題とならない量ですね。

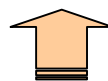
## 「1」検査オーダー

診療科医師が下図のコンピュータ画面より検査依頼をする(一例)

医師は患者さんの状態より必要な検査項目を画面上より選択し依頼すると、中央検査コンピュータシステムに伝わります



## 「2」検査部採血室受付



診察券を受付すると、採血に必要な採血管が自動で用意されます。ここでは、安全管理のため患者さんご自身より名乗っていただき最終確認しています。

## 「3」採血 - 朝 8 時 30 分開始 -

採血室は、患者サービスの一環として朝 8 時 30 分よりオープンしています。外来迅速検査に対応し、少しでも早く検査結果を報告し、患者さんの負担を軽減しようと考えています。

臨床検査技師、看護師が担当し、一日 230 名程の患者さんの採血を行っています。また、混雑している場合は、担当者を増員し待ち時間は、10 分程度以内となるように調整しています。

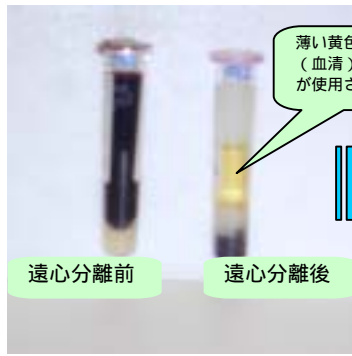


## 『4』遠心分離



遠心分離器

生化学、免疫血清検査の場合



遠心分離前

遠心分離後

薄い黄色の部分  
(血清)  
が使用されます

## 『5』検査実施



生化学検査

検体をセットする様子

セットされた検体はコンピューター管理の下で自動測定されます



血液検査

血液分析装置 L H755  
最大処理能力 一時間 105 件  
ベックマン・コールター社製



血糖検査

Glucose AUTO&STAT  
GA-1160  
アークレイ株式会社製



自動生化学分析装置 7600 形  
最大処理能力 一時間 1600 件  
日立 ハイテック・システムズ社製

## 『6』 検査結果

およそ 1 時間  
を目標に報告  
しています。



免疫血清検査

全自動免疫測定装置 AxSM  
最大処理能力 一時間 120 件  
アボット ジャパン社製



「太平山・紫陽花」  
2006/6 撮影 提供 佐藤氏

### 『検査の種類』

検体検査は大分類すると次のようになります。

生化学的検査（肝機能検査など）、血液検査（赤血球、白血球  
血小板などの検査）感染症検査（B型、C型肝炎ウイルス

HIV検査など）、血糖検査（グリコヘモグロビン検査含）輸血検査（血液型、交差適合試験など）、細菌検査（病原性微生物検査、ウイルス検査など）、尿検査、免疫血清学的検査（腫瘍マーカー、免疫学検査など）。

探検シリーズとして、少しでも検査の理解に役立つよう検査部内の様子をご紹介しました。検査についての質問はいつでも気軽に声をかけてください。患者さんの立場に立って説明していきたく思います。今後も、患者さんの視点に立って情報を伝えていきます。



## 検査に関することは何でもご相談ください

「四つ葉のクローバー」が当院のホームページに公開されましたので、ご参照ください。

ホームページアドレス <http://kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/>

検査結果は担当医へお尋ねください

編集担当 立崎、竹内、小保方